

# 回遊して体験する、道のような記念館

テーマ①梅岩先生の教えのキーワードである「正直、勤勉、質素・儉約」などの実践についての建築的な考え方

私たちの提案する記念館は、既存の建物や自然・景観との調和がテーマです。長い間存在してきたその自然、風土、風景の中に溶け込み、まるで昔からそこにあったかのような、そう感じられる建築を目指します。具体的には、豊かで魅力的な自然を取り入れることに重点を置きます。道のような記念館を歩きながら、生誕地の建物と自然を中と外からいろんな角度で体験することができます。シンボリックでモニュメンタルな記念碑的建築物を作らず、そこにすでに存在するものを最大限に活用することで、梅岩先生の教えである、質素・儉約につながる建築の提案となると考えます。建築計画においては、昔の技術と工法を採用するのではなく、経済性、機能性において現代的な建築技術や表現、手法を採用します。そうすることで、時代錯誤に陥らない時代に正直な、建築を提案します。生誕地を歩きながら体験する道のような記念館は、訪問者の勤勉性を必要とします。特殊な建築的美しさによってではなく、生誕地の場所が持つ美しさ、豊かさ、歴史そのものを、訪問者の勤勉性をもって体験する、そういう場所を提案します。



PR：プロジェクトへの意気込み、石田梅岩への想い、独自提案  
計画敷地内は、生家家屋群、庭、梅岩公園エリア、墓、段状になった空地などが、広い敷地内に点在しています。それらを、回遊しながら生誕地をくまなく歩いて体験できるような、道の記念館を提案します。またその生誕地の道は、心学の道につながり、そして、各地に点在する、記念碑や梅岩ゆかりの地へとつながり、それらを巡礼し知ることによって梅岩の理解をさらに深めることができます。